

特別寄稿

Apa & siapa

日本で人に頼らぬ生活

Feranisa Prawita Raras (2013 修士課程終了)

日本は生活費の高いことでよく知られています。当然、賃金も比較的高いようです。例えば、コンビニに店員としてパートで働けば、勤務場所や時間にもよりますが、報酬は時給 700 円から 1100 円です。

私は 2 年連続して冬休みに 2 週間、郵便局でパート勤めをしたことがあります。1 年目は夜 10 時から朝の 8 時まで。ハードな勤務で、時給は 1000 円強。翌年は無理を避けました。徹夜ではなく、体を考慮して夕方 5 時から午後 10 時までのシフトを選びました。時給が深夜労働の時より減ったのはやむを得ません。

日本では確かに賃金も生活費も高いと感じます。ただ、企業サイドからすればもちろん、人件費をできるだけ低く抑えたいはずです。私の郵便局での仕事は、年賀はがきの仕分けでした。はがきが元旦に配達されるよう、あて先を選別しておきます。実は郵便局には、とても大きな機械が設置されていて、その機械がはがきを自動選別します。毎分 100 通を超す処理能力を持っています。課せられた仕事は、機械で読み取れない年賀はがきだけを、選別するのです。数で言えば、郵送するはがき全体の 10% 未満だということです。

私たちの日常生活の中では、多くの単純な仕事がどんどん自動的な機械に取って代われ、常勤の必要がないところで臨時雇用が増えています。さまざまな分野での「自販機」がその 1 例です。日本には、インドネシアでポピュラーな屋台のカキリマやワルンがありません。ファストフード店では後片付けをする店員の代わりに客がセルフサービスをするのが普通です。使った皿、コップ、盆をトレイ置き場に自分で運ぶようになってきました。

日本では駐車場の窓口係や駐車係も減りました。誘導はいらないのです。最新のハイテク車には容易に駐車できるようなカメラも装備されています。ガソリンスタンドの係員も同様。客自身によるセルフサービス化です。高速道路ゲートの係員も減りました。大半のゲートで ETC の自動化が進んでいるからです。

公共交通機関の市バスには、運賃を徴収する車掌はいません。遠距離バスのチケットはインターネットでも購入できます。(IC 乗車券でなく) 現金の場合は、運転手脇の料金箱に運賃を入れます。電車の駅にはチケット販売の窓口係を減らすため、チケットの自動販売機が設置され、乗客は改札口でそのチケットを読み



取り機にくぐらせるのです。

1 日中外で活動して家に戻ると、女性の場合は家庭で仕事が待っています。家の掃除、片付け、料理、洗濯、アイロンがけ…。お手伝いさんがいません(日本の一般家庭では雇わないのが普通)。赤ん坊や子供の世話をしてくれるベビーシッターもいません。保育所に預けるのも大変で、安くありません。

たまたま私は今、インテリア・家具を販売する企業で働いています。家具のいくつかはデザインが単純化され、消費者が安く組み立てられるものもあります。例えば、3,990 円でシンプルな TV ラック、組み立てキット費用が 4,000 円です。ほぼ 100% に近いお客さんが、無駄な出費を避けて、自分で組み立てる方を選びます。大きな家具でも、買った商品を自身で持ち帰ることのできるお客さんには、ミニトラック貸し出しのシステムがあります。ソファや寝台、スプリングベッドを買ってピックアップや自家用車がなくても、何ら障害なしです。システム利用者のほか、お持ち帰りいただけるお客さんには 5% の割引特典があります。

私は今も学んでいます。日本に来て以来、他人に頼らずにやっていたらよい、ずっと学んでいるのです。何でも 1 人でやるというのではなく、人に頼らずに処理するということです。インドネシアにいた頃は、そういう風に考えたことはありませんでした。日本での生活経験は、終生価値のある自立の経験になると思っています。他人のためでなく、自分のためにどんな人になっていけるか、それを勉強できるのは、日本だけでしょう。

もちろん、インドネシアでいろいろな仕事を手助けしてくれる人たちは、貴重な存在だと思います。店員、雑貨商、お手伝いさん、ベビーシッター、駐車係、車掌、高速道やガソリンスタンドの係員…。彼らがいるおかげで、生活がスムーズに運びます。だけど、彼らの存在なしでも、人に頼らぬ自立は、立派に磨けます。私にとっては全てが生活の学習であり、そのことをありがたく思い、神に感謝しなければなりません。今までやろうとしなかった簡単なこと、それを試しもしせずに自らを甘やかしていれば、人生はあっという間に過ぎ去ってしまいます。